

あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL 0551-25-6100

FAX 0551-25-6103

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信



『未踏の時代を生きる』



社会福祉法人信和会 評議員

県立葦崎高等学校 校長

今 村 勇 二

葦崎高等学校の校長として赴任し、信和会の評議員を仰せつかって2年目となりました。令和4年2月2日にご逝去なされました信和会 会長 栗原信雄 様は、葦崎高等学校の第1期生であります。また、理事長 栗原信 様の母校でもあり、本年度、同窓会実行委員長として、同窓会総会・懇親会を盛大に開催されました。ここで、創立100周年を迎えたお二人の母校について紹介させていただきます。

本校は、大正11年、県立葦崎中学校として設置許可され、昭和23年に葦崎第一高等学校と改称し、昭和25年、葦崎第二高等学校と統合し、葦崎高等学校となり、現在に至っています。令和3年度末までの同窓生は三万二千名を超え、国内外での幅広い活躍に誰もが心強さと誇らしさを感じているところであります。

校訓「百折不撓」は、応援歌として現在も歌い継がれている葦崎中学校の校歌の第一主題であり、在校生や多くの同窓生が学び舎において常に親しみ、日常の実践目標としてきたものです。「何度失敗しても志を変えない不屈の精神」の意味を持つ校訓のもと、教育方針「人間を育てる」、教育目標「自ら学ぶ態度の育成」「体力と気力の充実」「全人的な人格の完成」を掲げ、知徳体のバランスのとれた生徒の育成を追求することを使命としております。

全日制は、現在、特色として、文武両道の一翼を担う活発な部活動と、今年11年目のスタートをきったスーパーサイエンスハイスクール（SSH）が挙げられます。また、定時制は、県内唯一の昼間二部制として、個々の生徒にきめ細かく対応し、一人ひとりの自己実現を目指した教育を展開しております。

さて、令和4年度は、高等学校教育にとって大きな節目となる年となりました。新学習指導要領が年次進行され、「令和の日本型学校教育」の実施に向けた高校の特色化・魅力化の改革が本格的にスタートしました。このような変革の時にあって、生徒たちは、新型コロナウイルス感染症の影響で、今までに経験したことのない時間を過ごしています。

私たちは、3年近くもの間、未知のウィルスと闘って来ました。それは忍耐と閉塞感を強いられた長い時間で

したが、昨今の町や店の賑わいを見ると、世界は一つの辛い時代を乗り越え、かつての日常を取り戻しつつあると感じます。私たちを取り巻く社会はコロナ以前と以降で大きく変化しました。ソーシャルディスタンスが定着し、人と人は自然に距離をとり、オンライン授業や在宅ワークにより、効率化が急速に進みました。その半面、心の距離はどうなったのかと、私は時折、不安に感じます。

しかし、私たちはこの新しい、未踏の時代を生き抜くなくてはなりません。どんな時代にあっても、たくましく、互いの心に寄り添い、ともに新しい時代を生き抜くために、教育は人間の感性と思いやりの心を育むものでなければならないと、思いを新たにしております。

社会の変革をふまえ、葦崎高等学校においては、日頃から、主体的・対話的で深い学びの視点から改善している授業、総合的な探究の時間をはじめ、全ての学校教育活動を通して、未踏の時代に求められる資質・能力を育んでいきます。そうした活動の長期的な継続により、再び、新型コロナウイルスのような新興感染症が流行したとしても、大村智博士に続く、地球上の感染症などを予防できる科学者や、パンデミックにおいても経済危機に陥らないようなシステムを構築できる経済学者など、社会を牽引するような人材が葦崎の地から輩出されることを願ってやみません。

終わりに、基本理念「接遇」「感謝」「向上」のもと、運営方針「真の福祉を追求していこう」を掲げている信和会がこの穴山地域とともに、社会福祉の一大拠点となりますよう、益々のご発展と職員の皆様のご活躍をお祈りいたします。

祝

第100回同窓会



本部だよい

社会福祉法人 信和会 法人本部
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
Tel 0551-25-6100
E-mail: honbu@sip-shinwakai.jp



大空に“願い”を込めて



去る、10月2日 特別養護老人ホーム穴山の杜芝生広場を点火場所として『2022 秋花火 “願い”』を開催致しました。

例年は芝生広場に利用者、職員、関係各位が一同に会し、事業所毎の出し物やゲストをお招きして楽しいひとときを過ごし、フィナーレとして花火の打ち上げを実施していました。

新型コロナウイルス感染症の影響で一同に集まることは難しい現状が続いています。

感染者の対応や感染におびえた二年間、どこか気持ちも沈みがちな毎日を過ごしてきました。

そんな中、それぞれの皆さんに胸に秘めた願いがあることを知り、密にならず遠くからでも楽しめる花火の打ち上げを企画・実施に至りました。開催時間までは各事業所で思い思いの行事を開催したあと指定された見学場所へ移動。

定刻より音楽と花火の響宴は始まり、短い時間ではありましたが躍動する楽しい時間を過ごすことが出来ました。未だ先が伺えませんが、少しでも心にゆとりを持ち、みんなで一丸となつてこれからも歩んでいきたいと思っています。

利用者、職員、ご家族、日頃からご理解、ご協力を賜っております全ての皆さんに感謝申し上げますと共にこれからもどうぞよろしくお願い致します。

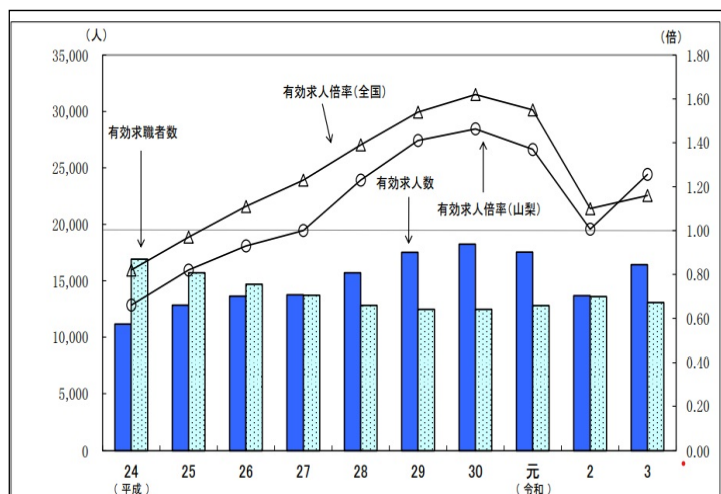


～ 法人を取り巻く雇用状況と今後について ～

右下のグラフをご覧ください。このグラフは平成24年から令和3年度までの山梨県の雇用状況（有効求人数と有効求職者数、それによる有効求人倍率）を表しています。コロナ禍による一時的な景気悪化で有効求人倍率は下がりましたが令和3年からは持ち直しています。令和4年8月度現在の労働局の発表では1.44倍まで上昇しており一般企業の景気が回復し雇用環境が改善しています。雇用に関して“福祉は不景気に強い”と言われたのは遠い昔で、慢性的な人手不足の福祉業界ではさらに厳しさを増しています。一般企業との合同就職説明会には例年積極的に参加していますが、ここ数年は多くの福祉法人が参加しながら求職者がなかなかブースに来ていただけない状況です。何度か訪問者“ゼロ”を経験し雇用状況の厳しさを痛感しています。

法人としても、公共の機関に限らず、現在では様々なスタイルで運営している民間求人サイトへの積極的な働きかけを行っています。この対策により一定の職員確保はできていますが、採用時の紹介料など採用コストは増大しています。民間求人サイトも乱立しており若干はコスト削減ができていますが募集人員に対して職員の確保はできていない状況です。

そんな中、新たに年間定額制（いわゆるサブスク）の民間会社との契約も行いました。今後は、職員からの紹介による報奨制度の検討なども考えています。労働人口の減少や福祉人材の流出など多くの問題を乗り越え継続した運営のために是非法人に関係する皆様よりご紹介などお力添えを頂けますようお願いいたします。



*山梨労働局 “山梨県の労働市場の動き” より抜粋

穴山の里

障害者支援施設 穴山の里
〒407-0263 静岡県穴山町 5164
TEL0551-25-5900
E-mail : sato@sip-shinwakai.jp

すっかり夏が終わり、秋空が美しい10月。「神無月」と呼ばれるこの季節、暦の上では10月8日ごろに「寒露(かんろ)」を迎え、10月23日ごろに「霜降(そうこう)」を迎えます。野の草にも露や霜が降って朝晩の冷え込みが感じられる季節です。体調を崩しやすい季節ですが、穴山の里の利用者は、みんな元気に過ごしています。紅葉も始まる良い季節です。今年は、外出の機会を多くして、みんなで秋を楽しみたいと思います。

理事長 栗原 信

次長 就任挨拶

1986年4月、私は社会福祉法人信和会に就職させていただきました。今の「つつじ寮」2階の奥の部屋に住み込んで、5月の「穴山の里」オープンに向けて研修を行ったり、受け入れの準備に勤しんだことを懐かしく思い出します。因みに私は今より“30キロも太っていた”し、窪寺さんは“多動だった”し、さくらの宮沢さんは“聖子ちゃんカット”でした。

オープンまで食事は会長宅でご馳走になりました。ご馳走になりながら、会長ご夫妻から色々ご教示をいただきました。当時は私も若かったので、お二人のお話に「？」と思ったりすることも正直ありました。その後、三年で退職して独立し、色々社会で辛酸を舐めてきたことで、ようやく当時のご夫妻のお話や思いが深く理解できるようになりました。

そんな私をこの春、信和会は聖書の《放蕩息子》の喩えのように暖かく迎えて下さいました。有難いことだと素直に感謝しています。3年ぶりに戻ってきた「穴山の里」、当時の利用者さんは皆、当然のことながら私と同じく齢を重ねています。お互い「穴山の里」で老いを迎えることができて良かった、と笑って肩をたたき合えるよう努めていきたいと思っています。(米川 崇)



ヒガンバナプロジェクト

ウォーキングを兼ねて彼岸花を見に行きました。今年も綺麗に咲いていました。今年のヒガンバナプロジェクトとして穴山地区でTシャツを作られたとの事で、穴山の里でも利用者さんにTシャツを購入させて頂きました。



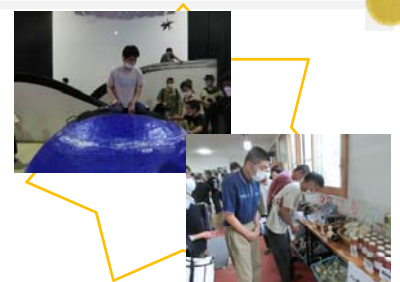
健康診断

鳳凰会館にて職員と利用者さんの健康診断を行いました。身長体重、視力聴力、心電図、採血、X検査を行いました。自分の順番が来るまで静かに待っていました。



バリアフリー演劇

八ヶ岳名水会のバリアフリー演劇祭の観劇に行きました。久しぶりの外出もあってか演劇を楽しそうに待つ姿が見られました。開演前に舞台セットを触らせてもらったり、セットで遊ばせて頂きました。3時間という長い時間の演劇ではありましたが最後まで集中して鑑賞していました。



わ〜く 穴山の里

多機能型事業所 わ〜く 穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
TEL : 0551-25-5866
E-mail : work@sip-shinwakai.jp

社会福祉法人さかき会みらいコンパニーの横内所長と職員の皆様が見学に来られました。同じ事業だからこそ、伝えたいこと、知りたいことが沢山あり、実り多い情報交換の機会となりました。利用者と一緒に作業もしていただき、作業場の雰囲気や熱さもお伝えしました。



✂ 発信力を育てよう ✂



利用者ミーティングは落ち着いた雰囲気の中で進みます。

～体験見学会 絶賛開催中～



山梨県立わかば支援学校高等部1年生の皆さんの見学。事前学習で色々学んでからの見学だと聞き、急遽「体験」メインの見学に変更しました！緊張しながらも目を輝かせて計量や箱折りの作業体験をする生徒の皆さんの姿に大感激！また来てくださいね。

誰かと一緒に仕事をするわ〜くでは、利用者にも職員にも必要な「発信力」を育てるために、皆で話しをする取り組みが増えています。

利用者はミーティングで、作業中に自分が感じていることをお互いに伝え合い、職員は終礼で、その日の気づきを共有するために、毎日「発信」をしています。

発信力＝相談力!!わ〜くのテーマ「生きる力」に繋がります。

共同生活事業所

共同生活事業所 (わ〜く 穴山の里内)
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
TEL : 0551-25-5866
E-mail: kyoudou@sip-shinwakai.jp

※食欲の秋、実りの秋※

地域の方々のご厚意で、栗拾いや稲刈りのお手伝いに行きました。汗を流しながら、一生懸命働きました。

自分達で収穫したから、より一層美味しいご飯!!!!

食べられることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。



栗栗の皮を剥く、栗を取る、殻を集める…手分けをして、出来ることを行い、みんなでたくさん栗を拾うことが出来ました。



毎年、稲刈りのお手伝いに行かせていただき、”稲架”の立て方もスムーズに!!!! 稲掛けも黙々と行っていました。地域の方々に関わり、良い気分転換になりました。



休日は地域参加の一環で周辺清掃、穴山駅の清掃などを行っています。地域の方々から「ありがとう」と、声を掛けていただいています。利用者さん達も嬉しそうに、清掃活動に励んでいます。

各グループホームに空気清浄機が導入されました。利用者さんたちが集まる食堂などに設置しています。感染対策に留意しながら過ごしてまいりたいと思います。



お彼岸には、世話人さん達と一緒に『おはぎ』を手作りしました。感染対策に留意しながら、真剣に作る利用者さん達。あんこときな粉をまぶし「このくらいいい?」と確認しながら作っていました。



穴山の杜

特別養護老人ホーム穴山の杜
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
TEL0551-25-6100
E-mail : mori@sip-shinwakai.jp

富士山に冠雪が見られ、紅葉の便りも聞かれるようになり、本格的な秋になってまいりました。今年も大きな台風が日本列島を襲撃しましたが、山梨は大きな影響もなく安堵しました。これからの大きな問題は諸物価の値上がりの影響です。電気料金や介護用品、その他もろもろの消費財の価格上昇の通知が来ており、特に電気料金の値上げ幅は大きく40%もの大幅なアップになってしまいました。どこの電力供給会社も一斉値上げですから、回避しようがなく大きな影響を受けてしまいます。価格下落の見通しのないまま、電気使用の増える厳しい冬を迎えることになります。



< 介護事故・拘束・虐待防止委員会 >

委員長 渡井紀之

委員会活動紹介

突然ですが、皆さんは「ハインリッヒの法則」をご存じでしょうか？

これは、1件の重大事故が起きる背景には、29件の軽傷事故があり、300件の「ヒヤリ」「ハット」するような無傷害事故が発生しているというものです。労働災害に対してなのですが、介護現場でも非常に重要視しています。一般企業ならば自身や物に対してなのですが、我々の対象は利用者(人)です。職員の一瞬の判断ミスや集中力の欠如、利用者の思わぬ行動によりケガや最悪の場合は命に関わる事故につながってしまいます。そのような事故を防ぐため、委員会として施設全体での研修を実施し問題に向き合い日々研鑽し、事故の見直しや対策を介護事故防止委員会が中心となってい、組織全体で介護事故防止に取り組んでいます。

また、拘束・虐待防止委員会では、拘束や虐待を利用者の自由を制限し尊厳のある生活を阻むものと捉え、安心できる生活の場を提供する事を最優先に考え、周知徹底に努めています。具体的対策の1つに、12の身体的拘束禁止の対象になる行為を原則禁止するとしています。興味深いのは、「身体拘束の具体例」は全国では11項目ですが、山梨のみ12項目あるそうです。その1つとは「スピーチロック」なのです。山梨の甲州弁がきついイメージがある為なのか、言葉による拘束をしやすい・・・といった理由があるのかもしれませんが。これは我々介護職だけでなく、山梨県民全体として日ごろからの言葉使いに注意していきたいですね。



9月19日は敬老の日！お昼御飯は、栗入りお赤飯にエビ天や茄子と南瓜の天ぷら、デザートはメロンでした。「今日ご馳走だね」「まだあるの？！豪華じゃん」と驚かれ、笑顔も見られました。いつもありがとうございます。



敬老の日 おめでとうございます

慰問や外出が思うように出来ず、生活の中で食事が大きな楽しみとなっています。「美味しいよ！」と笑顔で言っていただけの事がとても嬉しく、励みになります。季節を感じられる食材やメニュー、より楽しんでいただける食事を提供出来るよう、今後も関係者で連携を取りながら取り組んでいきたいと思います。

♪ ミニ夏祭り

今年も流行中の感染症の影響で、地域ふれあい祭りは行われませんでした。10月2日に法人実施の”秋花火”に合わせて、穴山の杜ではミニ夏祭りが行われました。鶴フロアではソース焼きそばをホットプレートで焼き、他にも焼きおにぎりやデザートも作りました。亀フロアではちらし寿司など華やかな食事をいただきました。「美味しい！」「私にはまだ？」「出来立ては格別だね」といつもと違う雰囲気や食事を楽しみました。



花火鑑賞では、花火の色に染まった沢山の笑顔や驚いた皆さんの表情が見られました。職員も普段見られないような利用者の反応や会話ができて、良い機会となり思い出となりましたね。

10月11日に利用者・職員の健康診断を行いました。毎年、山梨県健康事業団の方々のご協力により、スムーズに時間通り検診が終了出来ました

穴山の杜短期

穴山の杜 短期入所生活介護事業所
〒407-0263 韮崎市穴山町 4410-3
Tel : 0551-25-0800



今年も猛暑、爆発的なコロナ感染拡大、節電など三重苦とも言える夏を乗り切るため様々な工夫が求められました。施設でも水分ゼリーやおやつにかき氷などを取り入れ熱中症予防や、空気洗浄機の設置、エアコンの小さな清掃など職員で試行錯誤しながら元気に、今日を迎えることができました。

さて、秋にはスポーツの秋・読書の秋・食欲の秋というフレーズを耳にします。その由来をご存じでしょうか。スポーツの秋は昭和39年の東京オリンピックがきっかけになっている説、読書の秋は唐の時代韓愈の詩人が詠んだ「燈火稍く親しむ可く」の一節が由来となっている説、食欲の秋は様々な所説がありますが、味覚である栗、梨、秋刀魚や主食である米など多くの食材が旬を迎える秋は何時もより食欲が増すという由来から呼ばれるようになったそうです。

10月に入り寒暖の差が激しくなりますが、秋晴れの日には散歩をしながら利用者の皆様と、四季の移ろいを感じ楽しみたいと思います。



9月15日わく穴山の里の皆さんが『お花の掲示板』のプレゼントに来所されました。掲示板には色とりどりの花が飾られており、似顔絵には『毎日お元気で』『長生きしてね』など温かいメッセージが添えられてありました。早速お茶の時間にお披露目すると、利用者の皆様からも上手な出来栄に、歓声が沸きました。また、ホールの雰囲気も華やかになりました。大事に使用していきたいと思います。

9月19日敬老の日には昼食に『祝い御膳』が振る舞われると、利用者の皆様は『大好物ばかり!!』『おごっそうだな!!』と大喜びされ食されました。栗赤飯の赤は邪気払いの意味があり、海老フライは長いヒゲや腰の曲がった姿が老人に似ていることから長寿の象徴であるそうです。また、午後には職員からのメッセージカードのプレゼントもあり、菓子と抹茶をたしなみながら『目標は100歳!!』と終始笑顔で会話も弾みました。



より良い施設

ケアを目指して



介護現場における不適切ケアと予防法について研修会を行いました。各介護支援の場面ごとに項目を即し振り返り、不適切な発言行動等がどのような場面で多く発生しているのか、また今後に向けた改善点を見直す貴重な時間となりました。これからも、利用者のニーズに合わせたケアに取り組んでいきたいです。

創作活動



利用者の皆様とアイデアを出し合い、季節の移ろいと共にホールも装飾の衣替えをしています。紙コップを花火に見立て装飾し、障子紙を好みの色に染めて朝顔を咲かせました。手先やハサミを使用する細かい作業も真剣な表情で取り組み、作品に対する思いが感じられます。現在は柿を作成中です・・・。

お楽しみ食

10月2日、法人の花火に合わせお楽しみ食として夕食に『海鮮ちらし寿司』を提供しました。『楽しみにしていたよ!』『マグロが一番好きだよ』など、お寿司には目がないようで黙々と食べておられました。また長引くコロナ禍で、ご家族との面会制限や外食が出来ない利用者の皆さんにとって久しぶりの寿司は格別なご馳走だったようで、その様子を見ていて職員も嬉しくなりました。夕食後にはベランダで花火を鑑賞し、夜空を輝かせる花火の演出に寒さを忘れてしまうほどでした。『舌も目も大満足』なひと時となりました。



感謝録

(令和4年6月16日から令和4年9月30日)

～ご寄付を頂きました～(敬称略)

ありがとうございました。感謝いたします。

吉沢 明・木島廣子・川崎武志・五十嵐みさ・宮本美千代
仲二見金男・猪股直美・千野公洋・(株)内藤ハウス
(株)いえプロ・(株)ハートフルスタッフ・(株)セレオ
～ご協力を頂きました～(敬称略)

☆ボランティア

田中泰子(絵画)



10月1日に私たちの生活にかかわる多くのものが変更となりました。

- ① 厚生年金保険法・健康保険法・雇用保険法
- ② 育児・介護休業法
- ③ 後期高齢者窓口負担割合 など

制度が変更となり、一定条件に当てはまる契約職員(パート職員)さんは新たに社会保険への加入が義務付けられました。また、原材料の価格高騰による商品の値上げも始まっています。普段なかなかできなかった家計のムダを見つけ出し上手に節約していきたいですね。

訪問録

(令和4年6月16日から令和4年9月30日)

☆教育実習・職場実習(敬称略)

◎わかば支援学校

伊藤愛莉・小笹晴楓

◎帝京科学大学

坂本枝梨

◎韮崎東中学校

堀内絵子・清水 結・守屋 碧・川口 空
柁津颯汰

◎韮崎西中学校

清原葉月・後藤秋桜

◎日建学院

小澤徳洋

☆交流・施設見学(敬称略)

みらいコンパニー

マルス穂坂ワイナリー 志村

韮崎北東小学校教諭 伊藤・小林

韮崎北西小学校教諭 矢崎

わかば支援学校 生徒6名・職員3名

日中サービス支援型グループホーム建設計画進めています！

旧穴山保育園の跡地に、障害者向け日中サービス支援型のグループホーム建設を予定しております。障害者支援を長年続けてきた法人にとって利用者の高齢化に伴う介護の必要性を痛感しています。施設入居者への介護支援には限界があり、共同生活事業としても日中の生活介護も必要になる障害者の生活の場を確保することは大きな課題でした。このグループホームはその解決のひとつの形です。障害者の地域移行支援としてグループホームに居住していただき同じ施設内で日中の生活介護も受けられます。また、介護保険にて高齢者介護を活用できるように進められるなど様々な人生のステージにあった福祉サービスを受けられるようになると考えています。

【建設日程の概要】

OR4.11 ～ 宿尻遺跡としての発掘調査

OR5.1 ～ 造成、擁壁工事

OR5.4 ～ 建設工事開始

OR5.11頃 完成 開所式



※写真はイメージです

編集後記

金木犀の香りが秋風とともに運ばれ、施設周辺の木々も少しずつ色づき、田園の稲穂は頭を垂らし新米が美味しい時期を迎えました。法人内では健康診断も始まり個人的には秋が来てしまったと実感しています。早いもので今年も残りわずかとなりました。冬が近づくとインフルエンザも流行り、ダブル感染症対策をしながら、今後も利用者の皆さんが充実した日々を送れるように職員一同サービス向上に邁進してまいります。

(M. O)